

東広島植物園では、園内での活動を中心に、温室や圃場で見られる季節の花など、さまざまな情報を紹介しています。

・本施設は、宮島自然植物実験所、総合博物館、CSR(総合博物館公認学生ボランティア)など多方面から支援を受けています。

サクラの保全活動



3月15日、総合博物館、CSRにより、サクラの保全として施肥を実施しました。今回は、2021年に西図書館南側の駐車場に植栽した苗木23本を中心に作業を行いました。施設部からも2名協力いただきました。



作業は、3班に分かれて行い、苗木の半径1mに4か所緩効性肥料を施しました。あわせて、ひこぼえを剪定し、殺菌剤を塗布しました。



作業後には、4月から大学を離れ就職するCSRメンバーから挨拶がありました。

広島大学がサクラの名所になることを願って、管理作業はこれからも継続していきます。

キャンパスのノゲシのなかま

史前帰化植物=有史以前に稲や麦などの栽培植物とともに日本にもたらされた植物



ノゲシ(ハルノゲシ)

葉はやわらかく、羽状に切れ込みます。ふちに不ぞろいの鋸歯。基部は三角状、茎を抱きます。

いずれもキク科の二年草で、花期は春～秋です。オニノゲシはヨーロッパ原産の帰化植物ですが、ノゲシは史前帰化植物です。



オニノゲシ

葉には刺があり、羽状に切れ込みます。鋸歯の先は鋭い刺となり、痛い。基部は丸くない茎を抱きます。



アキノゲシ

羽状に切れ込んだ葉や広線形の葉のものがあり、すべて全縁の葉をつけるものは、ホソバアキノゲシとされる。花は淡黄色で、花期は8-12月。

「理学部・法学部のシンボルツリー」 シラカシ



シラカシの新芽

フナ科の常緑高木。広島県では、広島県東部を中心に分布しており、庭木や公園樹としてもよく植栽されます。キャンパス内においても、広く植栽されています。和名は、材の色に由来します。シラカシの材は堅く、農機具や大工道具の柄などに昔から利用されてきました。10月頃に1年成りの卵型の堅果をつけます。



栽培実習・R6年春コース



耕運機や鎌を使って、畝作りをしっかりと学びます。

R6年春コースを開始しました。今回も国際色豊かなメンバーとなりました。この実習では、自分たちで種まきから、ポット苗作り、マルチ張り、支柱立てなど、夏野菜の栽培に必要な作業を経験します。ここで得た経験が、どこかで活かされることを期待します。



アサヒ観光ツアー来園 野山の植物観察



4月25日、福山市のアサヒ観光ツアーのご一同27名が、植物園と発見の小径を見学されました。天候も良く、ケラマツツジやレンゲツツジ、ヒメヤマツツジなどを含め、多くの植物を観察しました。



発見の小径では、春の野草を観察しました。

気象観測システムの設置

東広島植物園に気象装置が設置されました。以前の気象装置が故障していたこともあり、今回、新たに設置されたシステムにより、再び、気温・湿度・雨量・風速・風力などの気象データの取得が可能になりました。



園内の植物

レンゲツツジ

Rhododendron molle subsp. japonicum



ツツジ科

湿地や草原、明るい二次林などに生育する落葉低木。花期は4月。県北に群生地があった。有毒植物で家畜は食べない。

園内の植物

ポタン *Paeonia suffruticosa*



ポタン科

原産地：中国。落葉低木。8世紀に薬用として渡来したが、その後、観賞用にも栽培されるようになった。古くから、さまざまな工芸品や絵画の意匠としても用いられている。



【お問い合わせ先】

広島大学 東広島植物園

TEL:082-422-7111 (内線2842)

E-mail: tshioji@hiroshima-u.ac.jp